

# 玉永寺通信

2016.12  
第51号

ぜひ家族のみなさまでお読みください



## 御正忌 (ごまんさん)

ごしょうき

11月28日、親鸞聖人のご命日に御正忌をお勤めしました。この地方ではこの行事を「ごまんさん」と呼ぶことが多いです。おそらく「御満座」（しめくりの法要）が訛ったのだと思います。「ごまんさん荒れ」という言葉がありますね。

正信偈のお勤めの後、「御絵伝」の絵解きをおこないました。「御絵伝」とは本願寺三代の覚如上人が書かれた「御伝鈔」という、親鸞聖人の伝記を元にした絵画です。この絵画を軸にしたものを、寺院の報恩講の際に、余間にお飾りすることになっています。今回は仕舞う前に、座敷に展示して解説をおこないました。

皆様、興味津々でお聞きくださいました。聖人が9歳で得度されてから90歳で亡くなられるまでの苦難の生涯を、改めてお話しして、浄土真宗の教えがこうした絵解きを通して伝わっていたのだと実感しました。来年も絵解きをします。合掌

# 玉永寺 報恩講点描



9月24日、同朋会のメンバーで玉永寺報恩講に向けてお道具磨きをしました。



10月11日は滋賀県玄照寺住職、瓜生崇氏に報恩講法話をさせていただきました。親鸞会講師を辞めて大谷派の住職となった経緯を熱弁してくださいました。自分は正しい宗教に出会ったとして周りを見下してしまう問題を指摘されました。「正しさへの依存」という言葉が印象に残りました。

讃仰企画として立山町在住の村井明子さんの高山植物写真展をおこない、解説をしていただきました。チングルマが発芽から枯れるまで、様々な美しさをみせる写真が興味深かったです。参詣して下さった皆様に心から御礼申し上げます。



11日夜、6時半から8時半まで「同朋の集い」として、瓜生さんを講師に横越クロポックで法話会を催しました。

クロポックでは8月、9月にも昼に同朋会を開催しました。カルチャールームでの法話会に新たな可能性を見出しました。この試みをステップにして来年から新たな連続講座を開催します。皆様ぜひご参加ください。

## 村井明子写真展より



ミヤマリンドウ



ゴゼンタチバナ



シモツケソウ



ヤナギラン



境内の境界を整備し、新たに6台分の駐車場を新設しました。

玉永寺通信  
発行所 富山市水橋小出五二  
真宗大谷派玉永寺  
TEL 076(478)0846  
<http://www.gyokueiji.net/>

2016年3月10日、推進員養成講座の前日打ち合わせを終え会場寺院から帰ろうとした矢先、携帯が鳴りました。観勢寺が親鸞会に譲渡されるという件で、上市町横越の門徒さんが相談にいらしているので早く寺に戻れという電話でした。驚いて帰り事情を聴きますと、横越全戸に、19日住民説明会が開催されるといふチラシが配布されたという事でした。この日から私の混乱した毎日が始まりました。

観勢寺は浄土真宗本願寺派（西本願寺）の末寺であり、親鸞会は1958年に元本願寺派僧侶である高森顕徹によって設立された浄土真宗系の新宗教です。高額な献金や、大学などでの正体を隠した勧誘で知られています。

私は本願寺派富山教務所、当該の立山組長を尋ね、情報を集めました。宗教法人の解散手続きを進めていた本願寺派観勢寺住職が、突然宗派を離脱し、単立寺院となって親鸞会に役員交代しようとしているという、驚くべき内容でした。それでも、離脱してしまったので手の施しようがない、という空気が漂っていました。

「寺の参詣は減少し、寺を会場とする葬儀も行われていない。そんな寂々とした東西本願寺寺院に比べ、小杉の親鸞会館には目を見張るような数の人々が聴聞に集まっている」と、親鸞会は世間にアピールしてきました。そして実際に維持に行き詰った本願寺派住職が親鸞会に寺を寄付すると申し出てきた。そこを参詣者でいっぱい

して、いよいよ親鸞会の時代がやってきたと。これまで東西両本願寺批判によって大きくなってきた親鸞会にとって、主張してきたことが現実になる最初の事例を観勢寺にするのでしょうか。

3月19日の親鸞会による住民説明会の内容については3月26日付の文化時報に詳細に書かれています。また、興山舎「月刊住職」5月号も観勢寺問題について丁寧の記事にしています。それには、過疎、人口減少に悩む地方寺院の抱える問題や、不活動宗教法人の売買問題という、観勢寺事件の背景について参考になる記事があります。私の手元にありますので、ぜひ一読されることをお勧めします。

### 編集後記に代えて

## 時代の変化の只中で いま住職が思う事

説明会では住民から親鸞会議渡に反対する意向が示されました。それでも観勢寺住職は譲渡にこだわり、2か月にわたって本願寺派も交えて交渉が続けられました。しかし残念ながら不調に終わり、譲渡されることが決まりました。

私は玉永寺住職として葬儀、法要、行事を執行してまいりましたが、教化についても精いっぱい力を注いできたつもりです。そして、同封のチラシにありますように、来年から横越クロポッケを会場として玉永寺同朋会主催の正信偈連続講座を開設します。

時代は大きく変わりつつあります。寺院も私自身も変わらなければ法を伝えるという仕事を果たせなくなります。改めて皆様のご協力、アドバイスをお願い申し上げます。合掌